

## 科 目 名

# 環境と法規 Environmental Law

2年 後期 2単位 選択

天 本 徳 浩

## 概 要

人間は得てして自由であれば自由であるほど、利己的な行動を起こしやすいものである。個人の何気ない行動が、環境（他の個人を含む）に大きな負荷を与えることもある。社会生活をしていく上で最小限のルールが必要となるのはこうしたことである。ましてや社会基盤施設などの大規模な構造物を造るうえではより慎重な配慮が不可欠である。環境に与える負荷を最小限に抑えるためのルールとしてのいくつかの法規についての知識を修得する。

## 目 標

- 1) 環境に関する法規の体系を理解する
- 2) 法規についての理念を理解する
- 3) 法規の効果について理解する

## 授業計画

### テ ー マ

1. 環境に関する時代背景について
2. 環境の意義と環境関連法規の体系
3. 環境基本法の理念と政策
4. 環境アセスメントの手続き
5. 環境リスク管理
6. 環境汚染を規制する法
7. 環境の保全と再生の必要性
8. 自然環境の保全の仕組みと手法（ゾーニング）
9. 個体保護のための行為規制
10. 公害防止・環境保全協定
11. 環境再生・創造事業のためのしくみ
12. 循環型社会形成のための法
13. 経済的手法による環境の保全と創造
14. 地球環境問題と国際環境法
15. 評価

## 授業方法

教科書を中心にビデオプロジェクターを用いて講義を進める。

## 学習到達度の評価

1. 授業中に学生へ質問し理解度を判断する。授業中および授業終了時に質問を受け、授業を補足する。
2. 適宜、レポートを課して授業の理解度の判断、および発展学習を促す。
3. 学生による授業評価および定期試験の結果が出た時点で今後の授業の参考とする。

## 評価方法

定期試験、レポート

## 教 材

鈴木敏央 著「新よくわかる ISO 環境法 改訂第3版」出版社：ダイヤモンド社